

KGRI 2040 独立自尊プロジェクト
プラットフォームと『2040年問題』プロジェクトシンポジウム

デジタル社会における 「新聞」とは何か

プラットフォーム企業があらゆる「言論」の門番となったデジタル社会において、「新聞」の存在意義が改めて問われている。偽情報やコタツ記事など我々の関心を強く引く情報がネット上に氾濫するなかで、果たして「新聞」は生き残れるのか。また、生き残るべきなのか。その答えが「Yes」であるならば、次に問題となるのは「How」である。ニュースという商品に対する捉え方が、スマートフォンを手放すことができなくなった我々の間で、あるいは我々の「脳」内で変化しているとすれば、そもそも「ニュース」という概念自体を再定義し、「新聞」のかたちそれ自体を変えなければならないのかもしれない。本シンポジウムは、このような課題を領域横断的な視点で検討する。

2021年9月17日 金 14:00~18:00
受付開始 13:30

参加無料
(要事前申込)

開催方法 オンライン
*事前申込頂いた方にウェビナーURLをお送り致します。

事前申込 <https://forms.gle/723FZ4ZabZDY96Gc6>
*締切：9月15日(水) 15時



14:00 開会挨拶 安井 正人 (慶應義塾大学医学部教授/KGRI 所長)
趣旨説明 山本 龍彦 (慶應義塾大学法務研究科教授/KGRI 副所長)

14:10 「読みたくない記事を届けるには」
奥山 晶二郎 (朝日新聞withnews編集長)

14:40 「スマホ脳と子供の学力」
榊 浩平 (東北大学加齢医学研究所助教)

15:10 「デジタル社会におけるジャーナリズムの可能性(仮)」
山腰 修三 (慶應義塾大学法学部政治学科教授)

15:40 「ウェブニュースの価値——プラットフォームの視点」
吉田 奨 (ヤフー株式会社政策企画統括本部政策企画本部長)

16:10 休 憩 (20分)

16:30 パネルディスカッション
パネリスト：鈴木 秀美 (MEDIACOM 教授・副所長)
田村 淳 (吉本興業タレント)
上記報告者
モデレーター：山本 龍彦

17:50 閉会挨拶 澤井 敦 (慶應義塾大学法学部教授/MEDIACOM 所長)
総司会：古嶋 凜子 (慶應義塾大学法学部3年・山本龍彦研究会)



奥山 晶二郎



榊 浩平



山腰 修三



鈴木 秀美



田村 淳

18:00-19:00 アフターセッション

「Z世代の新会議
～新聞の果たす役割を維持するために、
ニュース受容のあるべき姿を考える～」

ゲスト：天野 彬 (株式会社電通 電通メディアイノベーションラボ主任研究員)

パネリスト：慶應義塾大学学生有志

モデレーター：水谷 瑛嗣郎 (関西大学社会学部准教授)

司会：宮台 真伍、高橋 菜菜 (法学部3年・山本龍彦研究会)

【参加方法】当日シンポジウムのチャット欄にて別途案内